

読書活動支援者育成事業 会津地区研修会

日 時 令和6年7月22日(月) 13:20~16:20
会 場 北会津公民館
参加者 50名



☆講話☆ 「東日本大震災・原子力災害を経験して段ボールアートを通し

13年間の避難生活を語り伝える」

東日本大震災・原子力災害伝承館 震災語り部

遠藤 昭三 氏



○ 講話

- ・段ボールアートは、東日本大震災避難所で生まれたもの。
- ・避難物資が入っていた段ボールで間仕切りを作る。この間仕切りに鯉のぼりを貼り付けたのが、段ボールアートの始まり。
- ・段ボールアートで全国を回って、展示していただいている。震災が風化されないためにも続けていきたい。
- ・自分の命は、自分で守る。私の話を聞いて、防災について考えてほしい。【 遠藤 昭三 氏 】



★ 参加者から

- ・大変な状況でも段ボールアートで周りの人々を楽しませ、前へ前へ進もうという前向きな姿勢を見せる姿に感銘を受けました。
- ・遠藤氏の震災経験のお話から、想像以上に苦しい時間の連続だったと感じました。ただ、それを感じさせない遠藤氏の明るさと強さを感じた。私たちが日々享受している日常はかけがえのないもののだと思いました。

☆講義・演習☆ 「絵本読み聞かせ講座」 ～基礎・基本編～

福島県立図書館

資料情報サービス部
専門司書

児童資料チーム
田中 信乃 氏

○ 講義・演習

【読み聞かせのポイント】

- ・物語の面白さを耳から伝え、読書につなげる。
- ・絵本はいろいろな種類を組み合わせるのがよい。
- ・絵本を選ぶポイント、内容が分かりやすいか、おもしろいか、リズムがある美しい日本語か、生き生きとした魅力があるか、絵を追うだけでストーリーがわかるか、本作りの細部まで丁寧か。

【読み聞かせプログラム作成】

- ・グループごとに、読み聞かせプログラムを作成する。
- ・テーマや年齢に合わせて、本を選び、受け手の実態を把握しながらプログラムを作成した。

★ 参加者から

- ・自分が読み聞かせをする際、年齢のばらつきがあり、選定に悩んでいたため、今回の演習で学ぶことができてよかったです。
- ・読み聞かせのための絵本の選び方から、絵本の読み方までわかりやすく丁寧に説明があり、参考になりました。演習でグループごとに、本を選んだり、どんな順序がよいか話し合う活動をしたりして楽しかったです。



【グループで読み聞かせプログラムを作成】



【 田中 信乃 氏】